

秋田・本堂城跡

- 1 所在地 秋田県仙北郡美郷町本堂城回字館間
- 2 調査期間 第一次調査 二〇〇四年（平16）一〇月～一二月
- 3 発掘機関 美郷町教育委員会
- 4 調査担当者 山形博康
- 5 遺跡の種類 城館跡
- 6 遺跡の年代 戦国時代・安土桃山時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



本堂城跡は、横手盆地北側の真昼川・釜淵川合成扇状地の扇端部に立地する遺跡であり、二〇〇四年度から城跡の内容確認調査を実施している。今回の調査地は、JR奥羽線大曲駅から東へ約一・一km、国指定史跡「弘田柵跡」から北東へ約一・五kmに位置する。

本堂城は、戦国・織豊期に仙北東側中央部を支配した本堂氏が築いた城館である。内館を囲む土塁と内堀、

外館を囲む外堀から成り立つ二重堀の城であったと考えられ、現在も内館を囲む高さ約四mの土塁の一部が北東側に残っている。また、東へ約二kmの地点では、築城と同時に城下町が整備されたらしい。

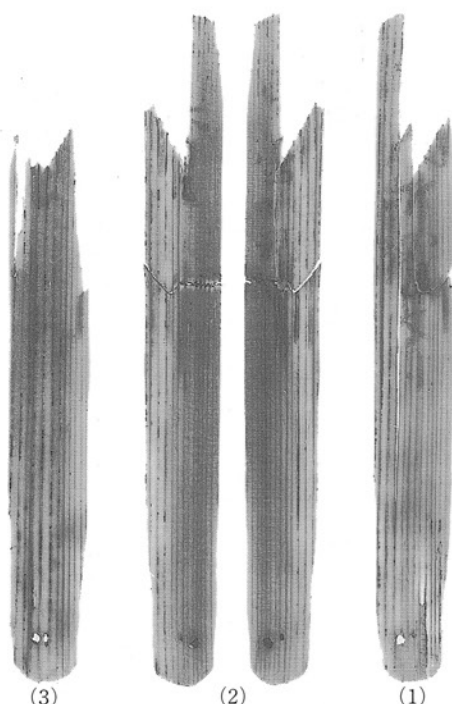
今回の調査は、内堀東側部分にトレンチを設けて行なった。その結果、内堀は上幅一五m深さ二・五mを測り、断面は逆台形状を呈することがわかった。堀の埋土は、慶長六年（一六〇一）に本堂氏が国替となり廃城となった後、自然堆積したものと考えられる。堀底には有機粘質土の堆積も認められた。

今回紹介するのは、堀の上面から出土した墨書のある檜扇の骨三点である。堀底からは曲物も出土している。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 〔伐カ〕
「折羅大将」
260×30×2 061
- (2) 〔脱カ〕
・「宮羅」
・「大」
260×30×3 061
- (3) 〔脱カ〕
「(215)×30×3 061」

(1) (3)は、同一の檜扇を構成する骨の部材。材も一連であろう。遺存状態はたいへん良いが、いずれも刀子などで意図的に割られており、上部に欠損がある。



(赤外線デジタル写真)

(1)は二片接続。十二神将の一体の伐折羅大将の名を記す。文字は骨の上半部に記されている。(2)は三片接続。十二神将の一体の宮毗羅大将の名が記されているが、(1)とは異なり「大将」を裏面に記していたと考えられる。(3)は三文字分程度の墨痕が残るが釈読できない。

なお、釈読にあたっては奈良文化財研究所の渡辺晃宏・馬場基・山本崇各氏のご教示を得た。

(山形博康)

木簡研究 第二四号

巻頭言—情報化と松と檜—

東野治之

二〇〇一年出土の木簡

概要 平城京東市跡推定地 薬師寺旧境内 旧大乘院庭園 東大寺
藤原宮跡 藤原京跡左京二条二坊 藤原京跡左京六条二坊・七条二坊
石神遺跡 飛鳥池遺跡 長岡京跡 平安京跡右京六条三坊七・八九・
十町 佐山遺跡(B2地区) 大坂城跡 東心斎橋一丁目所在遺跡
広島藩大坂蔵屋敷跡 鬼虎川遺跡 上津島遺跡 上町東遺跡 六条遺
跡 明石城武家屋敷跡 溝之口遺跡 赤穂城跡二の丸 志賀公園遺跡
下懸遺跡 仁田館遺跡 史跡建長寺境内 宮町遺跡 柳遺跡 八角堂
遺跡 柿田遺跡 八幡遺跡群社宮司遺跡 荒田目条里制遺構・砂畑遺
跡 泉慶寺跡(陸奥国行方郡街) 中野高柳遺跡 市川橋遺跡 仙人
西遺跡 十二牲B遺跡 観音寺廃寺跡 本莊城跡 北遺跡 盤若台遺
跡 高間(六)遺跡 福井城跡 畝田・寺中遺跡 北中条遺跡 指江
B遺跡 四柳白山下遺跡 寺地遺跡 岩倉遺跡 六日町余川地内試掘
調査地点 北小脇遺跡 浦廻遺跡 船戸桜田遺跡 船戸川崎遺跡 出
雲国府跡 川入・中撫川遺跡 安芸国分寺跡 南前川町一丁目遺跡
南斎院土居北遺跡 高知城伝下屋敷遺跡 中原遺跡 京田遺跡
一九七七年以前出土の木簡(二四) 平城宮跡
釈文の訂正と追加(五)

荒田目条里遺跡(一七号)

飯塚遺跡(二二号)

都城出土漆紙文書の来歴

古尾谷知浩

但馬特別研究会の記録

日高町の古代遺跡と出土木簡：加賀見省一、出石町の古代遺跡と木簡
：小寺誠、袴狭遺跡出土木簡と但馬国豊岡盆地の条里：山本崇、九世
紀の国郡支配と但馬国木簡：吉川真司、文書と題籤軸(報告要旨)：
杉本一樹、討論のまとめ：館野和己・今津勝紀

彙報

頒価 五〇〇〇円 送料六〇〇円